



かめるをたしかめる
特定非営利活動法人
日本顎咬合学会



Newsletter

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

99

2026.8.26

第
25回

咬合フォーラム in Nagoya

2026.9.27 (Sun)
9:50～16:15(受付9:30)

咬合治療の原点回帰 5

咬合再構成を成功させるために
～診断と治療の勘所～

「日本顎咬合学会」という学会名に特化した「咬合フォーラム」は、学術大会の内容が多岐にわたるようになり、「年に1回、丸一日かけて咬合を熱く語る日を」ということで、2000年から始まり、この度25回目、四半世紀という節目を迎えます（※2018年は北海道胆振東部地震により開催を翌年に延期）。また、4年前から取り組んでおります「咬合治療の原点回帰」シリーズも、いよいよ本年の「咬合再構成を成功させるために～診断と治療の勘所～」をもって終結となります。

本学会は臨床家の学会であり、「咬合再構成」を焦点とすることは多々ございます。しかし、今回の咬合再構成は、「シリーズの最終章」として位置付けており、過去4回のテーマに触れながら長期症例をご提示いただくという点が大きな特徴であると言えるでしょう。また、“必ずしも「咬合再構成＝全顎補綴」ということではない”という点につきましても、若手の先生方に今一度ご確認いただきたいところがございます。座長・演者の先生方にも、上記につき細部に亘って無理難題をお願いしておりますが、皆様「日顎のためならば」と快くお受けいただいております。感謝の念に堪えません。学術委員会といたしましては、2月初旬の段階で座長・演者の先生方との事前打ち合わせを執り行い、企画趣旨の説明を申し上げました。来る8月中旬にも第2回の打ち合わせを予定しておりますが、座長の吉木先生は自ら個別に打ち合わせの機会を設定なさるなど、「ディスカッションを活発なものへとするために」と、すでに半年近くの間奮闘いただいております。さぞかし熱のこもった、そして臨床に即した議論が繰り広げられることでしょうと、いまから楽しみです。

秋涼の候、ものづくりの名古屋にて、多くの皆様とのお目文字が叶い、共に咬合を熱く語ることができるよう心より願っております。

学術委員会 委員長 菅野 詩子

プログラム

座長：吉木 邦男（医療法人デンタルハート 吉木デンタルクリニック）

9:50～10:00	開会式 理事長挨拶 理事長 金沢 紘史
10:00～11:20	咬合治療の要件と咬合再構成の体系化 ー ナソロジーからデジタル咬合学へ ー 演者：貞光 謙一郎（貞光歯科医院）
11:20～11:25	小休憩
11:25～12:45	咬合再構成の勘所 ー 顎位はどのように決定し、どのように長期安定へ導くのか ー 演者：渡辺 隆史（医療法人社団 隆歯会 小滝歯科医院）
12:45～13:45	昼休憩
13:45～15:05	咬合再構成を極める ー ナソロジーの下顎位を再考する！ ー 演者：上田 秀朗（医療法人 うえだ歯科医院）
15:05～15:15	休憩
15:15～16:15	ディスカッション

第25回 咬合フォーラム 参加登録について

事前参加登録締切：2026年9月11日（金）

WEBサイトよりお申し込みください。メール、電話でのお申し込みは受付しておりません。

URL：<https://ago.ac/events-archive/kougou-forum2026/>

■ 支払い方法：クレジット・コンビニ

※受講票は開催3日前までに送付いたします。届かなかった場合には直接会場へお越しください。

※お支払期日は、登録期日と同日です。コンビニ決済をご希望の方、お早めにご登録ください。

※期日までに納入されない場合は申し込みが取り消しとなりますのでご了承ください。

■ 当日参加登録

支払い方法：現金支払いのみ

当日は
会員カードを忘れず
お持ち下さい!!



QRコード

■ 認定単位

10単位（指導・認定資格取得者が対象）

咬み合わせ指導医・咬み合わせ認定医へのご案内

第25回咬合フォーラムが「認定教育講演※」の対象講演となりました。会場内にて講演開始時と講演終了時に出席をとります。3名すべての講演を受講することが条件となっており、遅刻および途中退場をされた場合は「認定教育講演」の出席としては認められませんのでご注意ください。

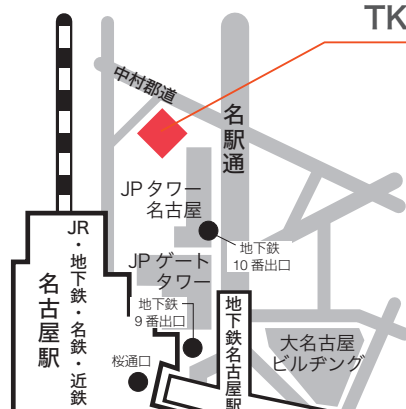
※咬み合わせ指導医・咬み合わせ認定医は、認定期間中（5年間）に認定教育講演を1回以上受講することが更新の必須条件となっています。

■ 参加費（全て税込）

会 員	歯科医師	¥7,700	非会 員	歯科医師	¥13,200
	歯科技工士	¥1,100		歯科技工士	¥1,100
	歯科衛生士			歯科衛生士	
	歯科助手			歯科助手	
	準会 員	無料		臨床研修医・学生	¥1,100

※ご入金後はキャンセル・ご返金はできませんのでご注意ください。

■ アクセス



TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋駅前

〒451-0045

愛知県 名古屋市西区名駅 1-1-17

名駅ダイヤメイテツビル 3階

- JR 東海道本線 名古屋駅
桜通口 徒歩2分
- 名古屋市営地下鉄
名古屋駅 9・10番出口 徒歩3分
- 名鉄名古屋本線
名鉄名古屋駅 徒歩5分
- 近鉄名古屋線
近鉄名古屋駅 JR線・新幹線連絡改札口 徒歩5分

抄 録

咬合治療の要件と咬合再構成の体系化 — ナソロジーからデジタル咬合学へ —



貞光 謙一郎

SADAMITSU Kenichiro

貞光歯科医院

1989 年 朝日大学卒業

1993 年 朝日大学補綴第2大学院卒業

1997 年 奈良市開業

歯科医療においては、疾病部位への局所的処置にとどまらず、口腔全体を一口腔単位として包括的に検査・診断し、長期的予後を見据えた治療計画を立案することが重要であり、さらに十分な患者説明を通じて主体的に治療選択を支援することが求められる。本フォーラムでは、一口腔単位の歯科治療の歴史的変遷を踏まえ、咬合再構成の現在と未来を俯瞰する。前半ではナソロジーを起点とし、オーガニックオクルージョンの概念を通じた治療咬合の要件を整理し、臨床を重ねる中で「確立してきた咬合再構成術式」が確立されたことを症例をもとに提示する。後半では、進化するデジタル機器を活用して取得した FUNCTIONAL BASIC DATA をどのように臨床応用し、精度の高い咬合再構成へ結び付けているかを紹介する。日本顎咬合学会の掲げる一口腔一単位の治療概念に基づき、審美と機能の充実および長期安定性の確立を目指す歯科医療の実践的指針を提示し、臨床家に「全体像をみる目」の重要性を医療・医業の観点から提起したい。

咬合再構成の勘所 — 顎位はどのように決定し、どのように長期安定へ導くのか —



渡辺 隆史

WATANABE Takashi

医療法人社団 隆歯会
小滝歯科医院

1982 年 城西歯科大学(現明海大学歯学部)卒

1984 年 城西歯科大学口腔診断学講座 助手

1987 年 福島県いわき市にて 開業

現在 アメリカ審美歯科学会(AAED) 会員

アメリカ歯周病学会(AAP) 会員

日本歯内療法学会 専門医

日本口腔診断学会 認定医

咬合再構成を成功に導くためには、形態回復に先立つ「顎位診断」が重要である。本講演では、少数歯欠損から多数歯補綴に至る症例を通して、顎位をどのように決定し、どのように長期安定へ導いていくのかを、臨床の流れに沿って提示する。

まず、視診・触診・顎関節所見の把握に加え、限界運動と習慣運動の診査を行い、下顎位の安定性と許容範囲を評価する。そのうえで、咬頭嵌合位(ICP)が生理的適応の範囲にあるのか、それとも中心位(CR)を基準として再構成すべきかを判断する。顎位の決定には、アンテリアジグによる記録とフェイスボウトランスファーを用い、下顎運動を咬合器上に再現しながらアンテリアガイダンスを設計する。さらにプロビジョナルレストレーションを通して、機能的適応や咀嚼経路、筋症状の変化を確認し、最終補綴へと移行する。

補綴装置は限界運動内で構築されるが、臨床的な安定は習慣運動との調和によって得られる。そのため、ICPからの経路(ガイダンス)と、開口時からの閉口路(パスウェイ)を踏まえた設計が求められる。また、長期安定には低侵襲の視点を忘れないことも重要である。不可逆的な補綴治療には極めて高い精度が必要、それが必ずしも良好な結果を保証するものではない。したがって、矯正治療も含めた包括的対応により、補綴的介入範囲の最小化を図ることが求められる。

本講演では長期経過症例を中心に、診断および介入時期の判断基準について提示する。

咬合再構成を極める — ナソロジーの下顎位を再考する！ —



上田 秀朗

UEDA Hideaki

医療法人 うえだ歯科医院

1983 年 福岡歯科大学卒業

1987 年 北九州市うえだ歯科医院開業

臨床症状の有無に関わらず、咬合に何らかの問題を抱えている患者は多い。そのような患者に対して良好な口腔内環境を獲得し、さらにそれを永続させるためには、不良な咬合関係を是正し、顎口腔系、すなわち顎関節、口腔周囲筋、歯および歯周組織の調和を図ることが重要である。一見、咬合に大きな問題がなさそうに見える症例であっても、詳細な診査・診断を行うことで、咬合平面の乱れや歯列の不調和が認められることは少なくなく、咬合関係の環境を整備しておく必要のある症例は多い。

咬合の安定において最も重要な要素は下顎位の設定である。従来のナソロジーでは、中心位を基準とした下顎位の再現性と安定性が重視されてきた。しかし臨床においては、必ずしも理論的中心位が患者にとって機能的・生理的に最適とは限らず、顎関節、筋機能、歯列状態、さらには適応能力を含めた個体差を考慮する必要がある。下顎位は固定的に規定されるものではなく、顎口腔系全体の調和の中で評価されるべき動的な概念として捉えられるべきであり、適正な下顎位の下で咬合平面を是正し、左右シンメトリックな歯列を構築することが、長期に安定した咬合関係、すなわち Longevity の獲得につながると考えられる。

しかし実際の臨床では、態癖や中枢系からのストレスブレーカーとして作用するパラファンクションなどの非機能的な力が、咬合関係や顎口腔系に持続的な負荷を与える。さらに、Dr.Fereidoun Daftary, Dr.Oded Bahat 先生が提唱する Craniofacial Growth に代表される生体の経年的変化、Aging（加齢変化）が加わることで、咬合の安定が損なわれた症例も少なくない。

本講演では、このような症例を供覧しながら、ナソロジーから発展した下顎位概念を整理し、顎口腔系諸組織の長期的変化を踏まえた咬合管理および咬合再構成の臨床的指針について解説する。

座 長



吉木 邦男 YOSHIKI Kunio

医療法人デンタルハート 吉木デンタルクリニック

1974 年 日本歯科大学歯学部 卒業

1984 年 名古屋市にて
吉木デンタルクリニック開院

日本顎咬合学会

日本顎咬合学会(中部支部)

臨床歯科学会

臨床歯科学会(名古屋支部)

指導医／評議員

監事

監事

監事

2026 年度 支部学術大会

開催・参加登録受付のお知らせ

日本顎咬合学会の全国6支部による支部学術大会が開幕します。本年度は、東北支部は山形市、中部支部は金沢市と、例年とは異なる都市での開催を予定しており、学会の認知度の向上と新会員の発掘に向けて鋭意準備中です。

私は学会全体の活性化には、裾野である支部の活動拡大が不可欠と考えております。支部学術大会は、非会員の歯科医師や歯科技工士、歯科衛生士をはじめコ・デンタルスタッフの皆さんにとっては参加しやすく、本会の魅力や入会メリットを伝える絶好の好機となります。昨今、若手歯科医師の「学び方」が変化する中、「いかに会場へ足を運んでもらうか」支部役員が一丸となって取り組んでいます。一人でも多くの方に参加してもらえよう、会員の皆様には地道な声かけによる集客への協力をお願いいたします。また、興味のあるプログラムがあれば他支部の学術大会への参加も大歓迎ですので、ぜひご出席ください。支部役員一同、お待ちしております。



支部委員長
須呂 剛士

2026 年度 各支部学術大会参加登録について

事前参加登録

WEB サイトの各支部ページよりお申し込み下さい。
メール、電話でのお申し込みは受け付けておりません。

<https://ago.ac/events/branch-academic-conference/>



当日は会員カードを忘れずにお持ち下さい!!

<認定単位> 指導・認定資格取得者が対象
支部学術大会出席…10単位 ※当日参加でも10単位付与されます。

2026 年度 支部学術大開催予定

北海道支部学術大会

開催日：2026/10/25 (日)
会 場：北海道歯科医師会館 (札幌市中央区)
テーマ：咬合学—未来へと続く大航海—

東北支部学術大会

開催日：2026/10/11 (日)
会 場：山形テルサ (山形市双葉町)
テーマ：三位一体で挑む臨床アップデート
～咬合から創る、生涯 " かめる " 口腔機能～

関東甲信越支部学術大会

開催日：2026/10/18 (日)
会 場：コンgresクエア日本橋 (東京・日本橋)
テーマ：歯科臨床の新しい未来は
パラデンタルと共に

中部支部学術大会

開催日：2026/12/6 (日)
会 場：ホテル金沢 (石川県金沢市)
テーマ：歯科臨床はチーム医療!

近畿・中国・四国支部学術大会

開催日：2026/11/15 (日)
会 場：オービックホール (大阪市中央区)
テーマ：ニチガク行コウゼ!
～成功の裏側を語り尽くす～

九州・沖縄支部学術大会

開催日：2026/12/13 (日)
会 場：福岡県歯科医師会館 (福岡・天神)
テーマ：これからの歯科臨床
～臨床の本質を考える～

2026 年度 咬み合わせベーシックセミナー

開催・参加登録受付のお知らせ

対 象 者

認定医および認定医を目指す一般会員歯科医師

セミナー概要

【ビデオ講義】（ビデオ講義のみの受講はできません）

【実 習 内 容】

①咬合採得 ②フェイスボウ ③上顎模型マウント
④咬合採得記録トリミング ⑤下顎模型マウント ⑥咬合診査

認 定 単 位

10 単位、受講証明書の発行

定 員

各地 10 名

受 講 料

33,000 円（税込み）

時 間

10:00～16:50

講師：菅野博康先生・菅野詩子先生 / 本セミナー担当学術委員：牧宏佳先生
インストラクター：各支部支部長・副支部長・指導医等

2026 年度「咬み合わせベーシックセミナー」スケジュール

支部 / 開催地	開催日	申込期間
北海道 札幌 和田精密歯研(株) 札幌営業所	2027 年 3 月 28 日（日）	(2027 年) 1 月 13 日～ 3 月 12 日
東北 仙台 宮城県歯科医師会館	2027 年 2 月 14 日（日）	(2026 年) (2027 年) 12 月 2 日～ 1 月 29 日
関東・甲信越 東京 日本顎咬合学会本部	2027 年 1 月 17 日（日）	(2026 年) 10 月 28 日～ 12 月 24 日
中部 名古屋 愛知学院大学歯科技工専門学校	2027 年 2 月 28 日（日）	(2026 年) (2027 年) 12 月 16 日～ 2 月 12 日
近畿・四国・中国 大阪 新大阪歯科技工士専門学校	2027 年 1 月 31 日（日）	(2026 年) (2027 年) 11 月 18 日～ 1 月 15 日
九州・沖縄 福岡 博多メディカル専門学校	2027 年 3 月 14 日（日）	(2026 年) (2027 年) 12 月 30 日～ 2 月 26 日

- お申込み完了後、「タイムスケジュール（簡略版）」および「模型作成手順書」をお送りいたします。
- ご自分の上下顎歯列模型を、手順書に則って作成し、セミナー当日、必ずご持参ください。
（模型をお忘れになりますと、実習にはご参加いただけず、単位付与・受講証明書発行もありません）
- 参加登録後のキャンセルはお受けいたしかねます。また、ご入金いただきました受講料の返金もいたしかねます。
予めご了承ください。
- ご自身所属の支部会場で日程のご都合がつかない方は、他の会場でも受講いただけます。

参加登録方法



事前参加登録のみ。

左記のQRコード、または、ホームページ「咬み合わせベーシックセミナーの開催・参加登録受付のお知らせ」よりお申込ください。

一般社団法人日本歯科専門医機構認定

補綴歯科専門医について

2023年5月24日に一般社団法人日本歯科専門医機構で、特定非営利活動法人日本顎咬合学会と公益社団法人日本補綴歯科学会が共同で運用する「補綴歯科専門医」が認定されました。これにより本学会の会員は、広告可能な専門医資格である「補綴歯科専門医」の資格を取得することができるようになりました。「補綴歯科専門医」を取得するためには、以下の条件をクリアする必要があります。

1 研修機関（大学）の研修歴5年以上

2 規定研修単位※の取得

※ 研修単位は、日本顎咬合学会や日本補綴歯科学会の学術大会や研修会への参加、両学会での発表や論文投稿、共通研修の履修などで取得できます。

3 補綴歯科専門医筆記試験の合格

4 学術大会での症例報告（ケースプレゼンテーション）、口頭試問

5 学会誌への論文投稿

これらの5つの条件をクリアし、両学会が運用する委員会での審査と日本歯科専門医機構の運用審査を経て、「補綴歯科専門医」の資格を取得することができます。

補綴歯科専門医制度については、日本顎咬合学会のホームページでご確認いただけます



補綴歯科専門医についての詳細は
当学会のホームページを
ご覧ください



第 44 回 日本顎咬合学会学術大会・総会 報告

2026 年 6 月 13, 14 日, 東京国際フォーラムにて, 第 44 回日本顎咬合学会学術大会・総会が開催されました。2 日間で, 4,000 名を超える多くのご参加をいただき, 成功裏に閉会いたしました。今大会は「歯科臨床における羅針盤—顎咬合学—」をテーマに掲げ, 学術の原点を見つめ直しながら, これからの臨床歯科が向かうべき道筋を提示する有意義な大会となりました。超高齢社会における歯科的課題や最新の治療技術, 医院経営にいたるまで, 多角的な視点から顎咬合学の価値と可能性を共有できたことは, 大変意義深いものと感じております。

【参加者内訳】

歯科医師：2,175名, 歯科衛生士：900名, 歯科技工士：283名,
歯科助手, その他：180名準会員, 非会員研修医・学生：145名,
賛助会員：118名, 日本補綴歯科学会：11名
Family Pass、Exhibition Pass：66名, 公開フォーラム：106名



開会式 表彰

金沢 紘史 理事長（左）から貞光 謙一郎 前理事長（右）へ保母賞（クリスタル盾）を贈呈。

講演レポート

2026 年 6 月 13 日（土）特別講演

Perigraftitis—移植骨感染という新たな病態概念 Dr. Jonathan Do (UCLA)

編集委員会 委員長 関野 愉（日本歯科大学 生命歯学部歯周病学講座）

第 44 回日本顎咬合学会学術大会において, 米国 UCLA School of Dentistry の Jonathan Do 先生による特別講演が行われた。Do 先生はインプラント治療, 骨造成および口腔病理学を専門とし, 臨床所見と病理組織学的解析を融合させた研究で国際的に知られている。本講演では「Perigraftitis（ペリグラフティティス）」という新たな病態概念が提唱され, 骨移植材そのものが慢性感染の原因となる可能性について, 多数の長期経過症例をもとに詳しく解説された。骨造成を伴うインプラント治療が広く普及した現在, 従来のインプラント周囲炎の理解を見直す重要な示唆に富む内容であった。

演者はまず, 現在一般的に用いられているインプラント周囲疾患の分類を概説した。インプラント周囲粘膜炎とインプラント周囲炎は広く知られているが, 臨床的には通常の治療では改善しない症例が少なからず存在することを指摘した。その原因を病理組織学的に解析した結果, インプラントではなく移植骨自体が細菌感染を起こし, 慢性炎症を維持している病態が存在することが判





明したという。この病態を Perigraftitis と命名し、Peri-implantitis とは区別して考える必要性を強調した。

講演では GBR やソケットプリザベーション、自家骨移植などの既往を有する症例が数多く提示された。患者は数年から三十年以上経過して疼痛、腫脹、排膿、インプラント周囲骨吸収を呈し、画像上は典型的なインプラント周囲炎と区別できないものが多かった。しかし摘出標本では移植骨顆粒の内部や表面に成熟したバイオフィルムが存在し、その周囲には好中球、リンパ球、形質細胞、マクロファージ、多核巨細胞などによる慢性炎症像が認められた。これらは異物反応を伴いながら長期間炎症が持続する病態を示していた。

特に印象深かったのは、インプラントを撤去しても炎症が改善しなかった症例である。従来はインプラント表面が感染源と考えられてきたため除去が根本治療とされることが多い。しかし感染した移植骨が顎骨内に残存している限り炎症は消失せず、再度開窓して感染移植骨を完全に除去することで初めて治癒した症例が紹介された。一方、感染した移植骨を完全に除去できれば、必ずしもインプラントを除去しなくても病態が改善する可能性があると述べ、Perigraftitis では感染源となる移植骨の除去が治療の鍵となることを強調した。

さらに、骨補填材は予想以上に長期間残存し、天然骨と同様のリモデリングをしない可能性があることが示された。十年、二十年、三十年以上経過した症例でも移植骨顆粒が確認され、そこが細菌の温床となり得るという説明は非常に興味深かった。骨造成材の種類や吸収性、宿主反応の違いが将来的な病態形成に関与する可能性についても議論され、骨補填材の選択や適応を改めて考える契機となった。

治療では感染移植骨と肉芽組織を徹底的に除去することが最も重要であり、必要に応じて再骨造成や軟組織移植を組み合わせることで良好な予後が得られることが示された。講演の中では病理組織像も提示しながら、移植骨内部および周囲に形成されたバイオフィルムや慢性炎症性細胞浸潤を示すことで、Perigraftitis という新たな病態概念を説明した。

質疑応答では骨補填材ごとの違い、発症リスク、病理検査の適応、インプラント保存の可否などについて活発な討論が行われた。演者は、Perigraftitis はまだ新しい概念でありエビデンスの蓄積が必要であるとしながらも、従来説明できなかった難治性症例を理解するうえで有力な仮説になるとの見解を示した。講演全体を通じて、臨床所見だけではなく病理学的裏付けをもって病態を理解する姿勢の重要性が一貫して示されていた。

骨造成を伴うインプラント治療は今後も増加すると考えられる。本講演は、単に新しい疾患名を提唱しただけではなく、日常臨床で遭遇する『なかなか治らないインプラント周囲炎』を別の視点から再評価する契機となる内容であった。Perigraftitis の概念が今後どのように検証され、国際的なコンセンサスへ発展していくか注目される。本講演は、インプラント治療の長期予後を考えるうえで多くの示唆を与え、日本の臨床家にとっても極めて有意義な講演であった。

第 44 回 学術大会 表彰者一覧

2025 年度学会誌優秀論文賞

矢吹 一峰（歯科医師）

第 43 回学術大会優秀発表者（口演）

栗田 恒雅（歯科医師）	中島 隆喜（歯科医師）
南 大河（歯科医師）	山崎 史晃（歯科医師）
紀藤 一将（歯科医師）	山村 佳央（歯科医師）
吉木 邦男（歯科医師）	住田 啓士（歯科医師）
有沢 旬平（歯科技工士）	藤井 みずき（歯科衛生士）

第 43 回学術大会優秀発表者（ポスター）

安岡 大介（歯科医師）	原田 哲幸（歯科医師）
向井 彰（歯科医師）	市村 修一（歯科技工士）
松田 伽菜（歯科衛生士）	

学会奨励賞

中村 光博（歯科医師）	カボプランメカ賞
加藤 和明（歯科技工士）	モリタ賞
片岡 千晶（歯科衛生士）	ヨシダ賞
田中 雅（歯科医師）	ジーシー賞

矢澤一浩賞

前沢 宙（近畿・中国・四国支部）



Informations



第45回 日本顎咬合学会学術大会・総会

歯科臨床における羅針盤Ⅱ

— エビデンスと経験則で考える顎咬合学 —

大会長：金沢 紘史

会 期：2027年6月12日(土)・13日(日)

会 場：東京国際フォーラム

WEB 会員システムに関する大切なお知らせ

住所・連絡先などの登録情報の確認・修正、認定資格・単位取得状況確認だけではなく、**学術大会等の研修会の申込をweb上のマイページにて行っていただけます。**大会の参加登録にはマイページへのログインが必要となります。必ず一度ログインし、情報の更新にご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

メールマガジン 会員募集中

メールマガジンでは、「日本顎咬合学会学術大会・総会」、「咬合フォーラム」、「支部学術大会」や「指導医研修会」、「認定研修会」など、最新情報を配信しております。ぜひメールマガジンにご登録ください！

メルマガ登録方法

会員ページにログイン後、詳細情報確認よりご登録情報が確認できます。メールマガジン配信「可」となっているかご確認ください。未設定の場合は、「会員情報を変更する」よりご変更ください。

会員ログイン URL : https://ago-sys.net/PMMS_AGO/U01/U010101



会員ログイン
QRコード



表紙絵 小林 真理江
Kobayashi Marie

小林真理江ホームページ
<https://kobayashimarie.com/>



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 News Letter 99

発行日：2026年8月26日

発行者：金沢 紘史

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-8-2 山京半蔵門パレス201

TEL：03-6683-2069 FAX：03-6691-0261 E-mail：nichigaku@ago.ac